

日本教育大学協会 全国美術部門 会報 No.57

令和5年度（2023）年6月23日発行

編集・発行 日本教育大学全国美術部門
代 表 新聞伸也（東海大学）
編集担当 高林未央（総務局事務）
広 報 室 E-mail: daibibumon@uaesj.com（総務局専用）
事務支局 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入る西大路町
146番地 中西印刷株式会社 学会部内
TEL: 075-415-3661/FAX: 075-415-3662
E-mail: uaesj@nacoss.com

探究的な学習が拓く造形教育

全国美術部門副代表 新井 浩（福島大学）



日本教育大学協会全国美術部門会員の皆様におかれては、日々造形教育にご尽力いただいているところと存じます。感謝申し上げますとともに、これからのさらなる連携と課題解決に向けたご協力をお願い申し上げます。

さて3年に及ぶ新型コロナウイルス感染症禍も感染症法で5類に移行するなど落ち着き、令和5年度の全国美術部門香川大会は4年ぶりに対面で実施することとなりました。過去3年の宇都宮・山形・宮崎各大会もオンライン開催の難しさやご苦勞があったものと存じますが、久しぶりの対面形式の開催である香川大会もかつての対面開催とは異なるご対応など難しさもあろうかと存じます。これまでのご尽力に感謝申し上げますとともに、会員の皆様には奮ってご参加いただけますようお願いいたします。

香川大会部門協議会では準備の状況によりますが「美術教育と探究的な学習」を中心に検討を進めています。内閣府教育・人材育成ワーキンググループでは「Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」の中で、「令和の日本型学校教育」で示された「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現やその他今日的な教育課題を解決する方策として「探究的な学習」とそのための「エコシステム」の充実を示しています。

探究的な学習をいかに教科に位置付けるか、ま

た「総合的な学習の時間」や高等学校に2022年から実施されている「総合的な探究の時間」と教科の関係について、各教科で様々な研究がされているところです。

美術教育についても「個別最適な学び」「協働的な学び」との関連、児童・生徒の多様化、コンテンツ・ベースからコンピテンシー・ベースへの教育課程転換、ICTの活用、探究的学習・STEAM教育を支えるエコシステムなどとの関連の中で探究的な学習に対する多様な研究を進め、造形教育の可能性を拓いていくことが望まれます。

香川大会では四国地区における連携教職課程の先駆的取り組みも注目されるところです。コロナ感染症への対策として懇親会はありませんが、懇親会に代わる交流の時間が模索されていますので、より良い情報交換が出来、各地区での検討に活かしていただきたく存じます。

最後になりますが、今年度も総務局員改選では困難な状況が続きました。多くの大学が後任補充に慎重な姿勢となっている中で、大学業務自体が多様化しさらに過重になっていることの現れと考えています。全国美術部門として重要な取り組みを果たし、造形教育の意義を発信し続けるためにも、総務局制度について改めて見直しを図る時期に来ているのかもしれませんが。部門会員皆様の一層のご理解をお願い申し上げます。

会員相互の協力と連携そして議論の大切さ

全国美術部門副代表 相田隆司（東京学芸大学）



令和5年度の全国美術部門副代表を務めさせて頂きます東京学芸大学、相田隆司でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

当方が勤務する大学でも、令和4年度より一部を除いて授業が対面形式に戻っておりましたが、本年5月8日を境に、それまで実施していた規制等が廃止されました。不安と期待を抱えながらの、コロナ禍のこれまでとは異なる日々、アフターコロナのスタートです。

日本教育大学協会規約第1章総則第4条（目的）には、「協会は、会員相互の協力によって、大学・学部の質的向上と教育に関する学術の発達を図り、もってわが国教育の振興に寄与することを目的とする。」とあります。いまをして時代の変革期とされ、私たちは様々な教育課題、これから目指すべき教育のあり方、前例のない新たな取り組み等々、実に多くの要件に向き合い、最適な解答を示していかなければなりません。そんな状況に置かれるとつい道に迷い、この部門の存在と意義はどう描出されるのだろうか、と途方に暮れるのですが、いうまでもなくここが私たちの原点といえるのではないかと思います。

また、私たちが部門と呼称する存在も、同協会における全国的な研究のための存在なのであり、規程第7条（研究活動）に「部門は、教科の研究、部門及び学校種別の諸問題等を検討するため、研究会の開催等を行うものとする。」とあります。スタッフの不補充が常態化していく中で、研究のためには、互いの協力と連携が必要だとの実感がかつてなく深まりつつあるのではないのでしょうか。本会報No.55（2021年6月発行）で新関伸也氏が「大学間共同教職課程と美術科免許」と題された巻頭言を執筆されています。そこでは、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」（平

成30年11月26日中央教育審議会）における提言を背景とする、「大学等連携推進法人」の認定制度に参画する大学が、課程の科目や専任教員を共通化し、教職課程を構築することが可能となった旨等報じ、今後は「オンライン授業が定着し、ICTによるネットワークを活用した大学間共同教育が、さらに加速されるであろう」と述べています。新関氏が示すとおり、この「一般社団法人四国地域大学ネットワーク機構」は、教員養成大学の免許取得の仕組みが変貌しようとしている今日、今後の連携、会員相互の協力のありようを考えていくうえでも極めて重要な存在といえるでしょう。

手許の新聞には、教員の複数教科の免許状取得を促進するため、中教審の検討委員会の会合が開催された旨が報じられています（日本教育新聞令和5年5月22日付）。記事によると、教員の複数教科の免許状取得を促すため、「学習指導要領に照らし内容を整理する。教科の専門科目では、学習指導要領で扱わない内容も学ぶことから、扱う内容を精選する。ただ、会合では委員から教科の専門科目で扱う内容について『学問的な系統性も踏まえて考えていく必要がある』などとする意見もあった。」とされています。教科内容の精選をめぐっては、ご存じのように、部門による考察の一つに、特別課題検討委員会が平成27年に冊子化した『うみだす教科の内容学 図工・美術の授業でおきること』があります。同委員会委員長小澤基弘氏による冊子同封の会員へのメッセージには、本教科の内容が時代とともに変化する流動性を伴い、常に試行錯誤を必要とすること、そしてそれゆえ議論継続が重要であると述べられています。

部門の原点を振り返りながら、会員の相互の協力と連携、そして議論の大切さをいままた再認識しているところです。

令和4(2022)年度部門 役員・各種委員会委員一覧

- 代表 新関 伸也* (滋賀大学) [東 海]
■副代表 新井 浩* (福島大学) 杉林 英彦 (愛知教育大学)
相田 隆司* (東京学芸大学) 野村 幸弘 (岐阜大学)
- 顧問 八重樫 良二* (北海道教育大学)
- 総務局委員
総務局長 村田 透* (滋賀大学) IV [近 畿]
副総務局長 松尾 大介* (上越教育大学) 永沼 理善 (和歌山大学)
福井 一真* (愛媛大学) 谷村 さくら (大阪教育大学)
- 総務局員 芳賀 正之 (静岡大学) [四 国]
前芝 武史 (兵庫教育大学) 福井 一真 (愛媛大学)
吉川 暢子 (香川大学) 山田 芳明 (鳴門教育大学)
藤井 康子 (大分大学)
手塚 千尋 (明治学院大学) V [中 国]
総務局事務 高林 未央 藤田 英樹 (島根大学)
吉田 貴富 (山口大学)
- 大会運営委員
幸 秀樹 (宮崎大学) [九 州]
吉川 暢子 (香川大学) 栗山 裕至 (佐賀大学)
中川 泰 (長崎大学)
- 監 事 新野 貴則 (山梨大学)
河西 栄二 (岐阜大学)
- 地区全国委員
I [北海道]
佐々木 けいし (北海道教育大学岩見沢校)
李 知恩 (北海道教育大学札幌校)
- [東 北]
虎尾 裕 (宮城教育大学)
渡邊 晃一 (福島大学)
- II [関 東]
向野 康江 (茨城大学)
本田 悟郎 (宇都宮大学)
- III [北 陸]
岡田 匡史 (信州大学)
柳沼 宏寿 (新潟大学)
- 学校美術教育支援委員会
(兼 大学造形教育連絡協議会)
(兼 全国造形教育連盟大学部会)
委員長 西村 德行 (東京学芸大学)
副委員長 笠原 広一 (東京学芸大学)
委員 岡田 匡史 (信州大学)
大島 賢一 (信州大学)
- 将来構想委員会
委員長 新関 伸也 (滋賀大学)
副委員長 佐藤 哲夫 (新潟大学)
委員 新井 浩 (福島大学)
相田 隆司 (東京学芸大学)
松島 さくら子 (宇都宮大学)
山田 芳明 (鳴門教育大学)
柳沼 宏寿 (新潟大学)
小林 俊介 (山形大学)
新野 貴則 (山梨大学)
村田 透 (滋賀大学)

*印：運営委員

令和4(2022)年度 地区会報告

I 北海道地区・東北地区

【北海道地区会】

日時

令和4年9月2日(金)
10:40～11:40

場所:

ZOOMを活用した
オンライン開催

参加者

札幌校: 牧野 香里
旭川校: 岩永 啓司、南部
正人、八重樫 良
二
釧路校: 佐々木 宰
函館校: 橋本 忠和
岩見沢校: 岩崎 仁美、大
西洋、佐々木 け
いし、土井 伸也、
山内祈信(敬称
略)

■協議事項

1. 令和6年度以降の地区全国委員・地区全国理事について

下の表の通り、令和6～7年度の地区全国委員・地区全国理事について、大石先生(旭川校)、が担当することが提案され了承された。

年度	地区全国委員・地区全国理事	
R2	竹田(岩見沢)	福江(釧路)
R3	佐々木(岩見沢)	福江(釧路)
R4	佐々木(岩見沢)	李(札幌)
R5	伊藤(岩見沢)	李(札幌)
R6	伊藤(岩見沢)	大石(旭川)
R7		大石(旭川)

■報告事項

1. 新任教員のあいさつ1 ・令和4年度着任

- ・岩見沢校 美術教育 岩崎仁美先生
- ・岩見沢校 書 土井伸也先生

2. 新任教員のあいさつ2 ・令和2年度着任(R2年時、書面でのみ挨拶済み)

- ・札幌校 絵画 牧野香里先生
- ・岩見沢校 彫塑 山内祈信先生

3. 退職者のあいさつ

- ・旭川校 デザイン 八重樫良二先生
(R3年度で退職、現在特任教授)

4. 出席者全員から近況報告等

5. 各校の進路・就職等状況、課題、教員公募、展覧会情報などに関して情報交換

6. 理事会からの連絡事項伝達

- ・登録メールアドレス確認のお願い
- ・第61回大学美術教育学会宮崎大会参加の呼びかけ

■その他

- ・令和5年度の学会開催予定について

作成者: 北海道教育大学岩見沢校
佐々木けいし

【東北地区会】

日時

令和4年7月29日(金)
16:00～19:20

場所

オンライン会議
(Cisco Webex Meetings,
担当校・岩手大学)

参加者

全15名
弘前大学: 出佳奈子
佐藤 絵里子
塚本 悦雄
秋田大学: 長瀬達也
岩手大学: 長内 努
金沢 文緒
溝口 昭彦
宮城教育大学: 虎尾裕
山形大学: 具志堅 裕介
小林 俊介
土井 敬真
降旗 孝
福島大学: 新井 浩

■協議事項

1. 東北地区会規程に関する今年度の取り扱い

「申し合わせ事項『年会費は、教員1名当たり2,000円とし、定例総会の当日当番大学へ納入する。』」に関して、今年度の新型コロナウイルス感染状況を勘案し集金については見合わせるものとし、全国理事会の会議形式が対面になった場合は申し合わせ事項に則り再度協議することとした。

■報告事項(各大学の現状、新規入退会者、情報共有など)

1. 美術分野の現況と、美術免許(中・高)維持の方法、及び共同教職課程の実態と展望について

- (1) 小学校、中学校免許を取り易くするための方策が検討され、義務教育特例を念頭にどちらも取れる制度が検討されている。
- (2) 実技系教科免許の廃止を機に、免許を取得できる大学を中心に、出講体制の集約などを見据え、南東北エリアの大学間で調整が進む可能性も予想される。

2. 美術系教員の配置について

各大学から資料に基づき、教員の担当領域、人数等の現状報告。さらに後任補充等に関する報告があった。

3. 入試状況、入試体制について

各大学から資料に基づき、試験実施の概要、募集人員、合格者等についての報告があった。

4. 学生の就職状況について

各大学から資料に基づき、就職状況についての報告があった。

5. 教員免許状講習に代わる取り組みについて

各大学から報告があった。

6. 小学校教科担任制について

- (1) 各大学からの報告と、各県の実態と今後の展望について意見交換を行った。
- (2) 卒業要件として、副免許も課せている現状では、教科担任制はない県もあるとのこと。

7. 2023年度美術科教育学会弘前大会について、弘前大学から報告があった。

8. 小学校免許科目における鑑賞学習や美術館学習の現状について。及び、地域における

加藤 奈保子
渡邊 晃一

大学主体の美術関連イベントの実施状況について

- (1) 美術館学習について、秋田大学をはじめ該当する事例紹介が各大学から報告があった。
- (2) イベント実施状況について、岩手大学をはじめ該当する各大学から、事例紹介の報告があった。

9. 新規入退会について、報告があった。

2022年度～23年度東北地区全国委員として、新たに、福島大学渡邊 晃一先生にお願いした旨、報告があった。

■その他

1. 来年度東北二部会開催について、宮城教育大学が担当する報告があった。

作成者：宮城教育大学 虎尾 裕

II 関東地区

【関東地区会】

日時

令和4年7月17日（日）
13：00～15：40

場所

茨城大学 Teams 会議
(Teams ウェビナー使用、
オンライン)

出席者 全 38 名

東京学芸大学：鉄矢悦朗、
古瀬政弘、朝野浩行、
正木賢一、清野泰行、
相田隆司、笠原広一、
花澤洋太、西村徳行、
速水敬一郎

横浜国立大学：原口健一、
河内啓成

千葉大学：小橋暁子、神野
真吾、佐藤真帆

茨城大学：片口直樹、島田
裕之、向野康江、甲斐
教行、齋藤芳徳、島剛、
小口あや

宇都宮大学：株田昌彦、梶
原良成、松島さくら子

群馬大学：喜多村徹雄、林
耕史、齋江貴志、郡司
明子、市川寛也

山梨大学：栗田真司

埼玉大学：高須賀昌志、小
澤基弘、石上城行、内
田裕子

筑波大学：水野裕史、直江
俊雄、仏山輝美

〔議事〕

- ・地区会長あいさつ（茨城大学、向野康江）
- ・日程説明（茨城大学、片口直樹）
- ・議長団選出 議長（茨城大学、向野康江）、
副議長（宇都宮大学、株田昌彦）

1. 前年度議事録の確認（茨城大学、向野康江）

2. 地区会長報告（千葉大学、神野真吾）

前年度の全国総会について報告。

3. 令和3年度関東地区会収支決算報告（千葉 大学、佐藤真帆）

4. 令和3年度関東地区会会計監査報告（横浜 国立大学）、承認

5. 令和4・5年度全国美術部門地区全国委員 選出

「宇都宮大学、本田悟郎」に決定
(R3年・R4年度「茨城大学、向野康江」)

6. 令和4・5年度大学美術教育学会地区全国 理事選出

「宇都宮大学、本田悟郎」に決定
(R3年・R4年度「茨城大学、向野康江」)

7. 令和5年度地区総会・協議会の開催につ いて

当番大学「宇都宮大学」を確認。開催方法
オンラインの予定（宇都宮大学、株田昌彦）

8. 令和4年度会計大学、監査大学について

会計大学「茨城大学」、監査大学「千葉大学」
が確認された。

集金方法、指定口座振り込みの確認（茨城
大学、片口直樹）

■承合事項

各項目について大学間で承合し情報共有し
た。項目は次の通り。

学生募集の記述内容と人数の増減／「情報」
の取り扱い、ICTの活用、オンライン授業／
教職大学院の状況と実習先／各県教員採用試
験／各大学教員就職率／就職活動の現況／大
学教員評価／専任教員充足率／留学生対応

■協議事項

1. 教員志望増可のための手立てについて

宇都宮大学より、美術分野（専攻）の教員
就職率が学部内他の分野（専攻）と比べて低
いことが示され、美術分野（専攻）の学生が
教員を志望するための手立てについて協議さ
れた。これを受け群馬大学の「美術長期研修員」
という制度など、卒業生による研修実施など
が参考として報告された。

2. R4年度教大協関東地区会への補助金の申 請について

茨城大学より、R4年度教大協関東地区会
への補助金申請の要無と用途について審議提
案があり、前年度『美術教育の理論と実践第
2号』刊行と同様に補助金申請を踏襲するこ
とや新たにパンフレット作成などが議論され
たが、同日の地区会で結論は出ず、後日8/
12までのメール審議となった。その結果、
今年度の申請は行なわないこととなった。

■報告事項（各大学の現状、新規入退会者、 情報共有など）

1. 入会者「茨城大学、齋藤芳徳」
2. 退会者「山梨大学、村松俊夫」「筑波大学、
宮坂慎二」

作成者：宇都宮大学 本田悟郎

【北陸地区会】

日時

令和4年6月30日(木)

14:30～16:30

場所

Zoomでの遠隔会議

出席者 全20名(敬称略)

金沢大学：大村雅章

江藤望

新潟大学：三村友子

橋本学

佐藤哲夫

丹治義彦

永吉秀司

田中咲子

柳沼宏寿

富山大学：上山輝

鼓みどり

隅敦

福井大学：湊七雄

坂本太郎

小笠原文

上越教育大学：伊藤将和

洞谷亜里佐

松尾大介

安部泰

信州大学：大島賢一

■報告事項

1. 令和4年度事業計画と会計予算

北陸地区運営費には美術部門に35,000円の予算が充てられているが、コロナ禍で事務経費がかからないことを想定して予算を3,000円とした。35,000円については昨年度当番の信州大から当番校裁量で良いだろうとの判断が示された。今後、理事・委員が学会の会議へ出向く旅費が発生する場合等に申請して使用したい。

2. 当番校について

北陸地区会評議委員会の要項に、美術部門の令和5年度の当番校が金沢大学と記されていたことを踏まえながら来年度について協議した。数年前、福井大学が全国大会を受け入れた年に当番校をスキップしていた経緯があり、それを踏襲して令和5年度は福井大学が当番校となること、そして令和6年度は金沢大学が北陸地区の大会開催校と予定されているために当番校をスキップすることを確認した。(※ローテーション：福井、金沢、富山、上越、信州、新潟)

3. 新理事・新委員の選出

令和4・5年を新潟大学の柳沼が担当することです承を得た。

4. 2024年の全国大会について

2024年(令和6年度)の北陸地区での全国大会について、ローテーションで金沢大学が引き受けることです承を得た。

■協議事項

1. 各大学の現状・課題について

多くの大学で教員不補充が深刻な問題となっている現状が報告された。そのような中、金沢大と富山大の共同教育課程が始り、共同での実技教育の様子とともに、教員定員が少ない中での効果や免許を出すことができるようになったことなどが成果として挙げられた。また、新潟大学は改修工事を控えているが、文科省の示す基準面積が狭く、現在の三分の一近くに減少する見込みであることや、福井大では10年前からスペースチャージを導入し、チャージ料について学部全体から補助してもらえるようになった経緯が紹介された。

2. 美術の免許取得後、その免許がどのように生かされているか。

首都圏では文化財関係で活躍の場がみられることや、福井県は人事異動が小中またがっていて、美術や家庭科の動きが目立つことなどが紹介された。

3. ICT活用について

研究費や科研費でタブレットを購入していることや、学生個人のスマートフォンを活用していることなどが報告された。また、アプリケーションの制限に関する問題点や対処法などについて話し合われた。

作成者：新潟大学 柳沼宏寿

【東海地区会】

日時

令和4年9月4日(日)

10:00～12:00

場所

Zoomによる遠隔会議

出席者 全23名

愛知教育大学(5名)：

井戸真伸

鷹巣純

中村僚志

松本昭彦

杉林英彦

三重大学(6名)：

■協議事項

1. 令和4年度部門・学会地区委員について

令和3・4年度担当委員の杉林英彦(愛知教育大学)の継続、令和4・5年度担当委員として野村幸弘氏(岐阜大学)の選出、および令和5・6年度担当委員の永江智尚氏(愛知教育大学)の予定を確認した。令和4年度事務代表として幹事校の杉林英彦(愛知教育大学)が担当することとなった。

2. 次年度(令和5年度)開催地について

令和5年度東海地区会開催校は、地区内でのローテーション(岐阜大学→静岡大学→愛知教育大学→三重大学)にもとづき、三重大

学に決定した。

■報告事項(各大学の現状、新規入退会者、情報共有など)

1. 各大学の新型コロナウイルス感染対策と講座等における授業実施の状況について

新型コロナウイルス感染症対策にとまなう、各大学での授業の実施状況などが報告された。各大学における対面式、遠隔式、ハイブリッドなどの授業方法や教育実習への対応に関する報告が行われた。概ね、対面式の授業方法を推奨され、全15回中8回を超えない遠隔授業を認められている状況の報告が多かつ

上山浩
岡田博明
奥田真澄
関俊一
山口泰弘
山田康彦

岐阜大学（3名）：

河西栄二
野村幸弘
山本政幸

静岡大学（4名）：

伊藤文彦
占部史人
高橋智子
芳賀正之

た。愛知教育大学では、コロナ対策とは関係なく、全回の講義を遠隔実施する「メディア授業」という枠組みが設定され、大人数の講義形式の科目が大学の許可を受け実施されているという報告もあった。

2. 志願者数の動向（入試情報）について

各大学の学部・大学院における入学志願者数の動向と入試の変更点などが報告され、志願者数の増減や入試広報、教員採用試験への受験との紐付けなどについて意見交換が行われた。各大学とも受験者数が減少傾向にあり、受験科目や実技試験内容の検討、入試広報の改善などの課題を抱えている状況で、今後の動向を注視していくことが確認された。

3. 卒業生・修了生の動向（進路情報）について

各大学の令和3年度卒業・修了生の進路状況について報告された。教職、公務員、一般企業、進学などの進路割合については、ほぼ例年並の傾向であった。教職希望がやや増加しつつある大学もあったが、教職大学院への進学については、まだ僅かである状況が報告された。

4. 各大学学部・大学院における改革・改組等の状況について

各大学における組織改革の状況が報告された。学部の教員養成課程の改組・再編にともなう定員の増減（静岡大学の新学部設置など）、さらに新たに始まった教職大学院の取り組み

状況について報告があった。教職大学院においては、美術教育分野を志望する院生数の伸び悩み、美術の専門科目の設置状況などについて意見交換が行われた。

■その他

1. 昨年度の卒業制作展の開催状況及び今年度の計画等

昨年度の各大学の卒業制作展は、愛知教育大学：実地開催、静岡大学：実地・Web同時開催、岐阜大学：実地開催、三重大学：実地実施（Web事前予約制）という方法をとったことが報告された。実地開催の大学においても、SNSを通して公開を行っている、または今年度も昨年度同様の開催計画であることの報告が行われた。

2. 全国大会（宮崎）のご案内

芳賀正之氏（静岡大学）より、令和4年度日本教育大学協会全国美術部門協議会並びに第61回大学美術教育学会 宮崎大会（配信開催）のご案内があった。

3. その他

地区会開始時の自己紹介の時に、山田康彦氏（三重大学）から今年度をもって特任教員としての退職により退会される旨の挨拶があった。

作成者： 愛知教育大学 杉林英彦

IV 近畿地区・四国地区

【近畿地区会】

日時

令和4年6月5日（日）
13：00～15：30

場所

オンライン

出席者：全11名

奈良教育大学：原山健一
兵庫教育大学：前芝武史

■協議事項

1. 会員数、入退会者の確認と後任補充について

退会者と今後の人事について報告があった。大阪教育大学1名退職、奈良教育大学1名退職、兵庫教育大学1名退職。今年度会員数は奈良教育大学5名、兵庫教育大学6名、神戸大学2名、滋賀大学4名、京都教育大学5名、

和歌山大学2名、大阪教育大学9名。3名減少しており、後任人事も無い場合があることへの対策について、1大学単独で免許状が出せなくなるなどの懸念も含め、各大学の現状を確認しつつ意見交換した。

2. 今年度の全国理事の選出について

2021－2022年度：永沼理善先生（和歌山大学）の継続、2022－2023年度：谷村さく

大阪教育大学：寺島みどり
谷村さくら
京都教育大学：日野陽子
丹下裕史
和歌山大学：寺川剛央
永沼理善
神戸大学：勅使河原君江
滋賀大学：新関伸也
世ノ一善生

ら（大阪教育大学）新規選出が了承された。また、地区理事として2022 - 2023年度：大阪教育大学、以降、奈良教育大学→兵庫教育大学→京都教育大学→滋賀大学の輪番を確認した。

3. 今後の学会の在り方について

現在3つある学会の連携について意見交換がなされた。後任人事の滞り、共同教育課程による教員の負担増、免許法改正の危惧や教員定数の減少などの問題に対し、将来的にどのような形で「部門」と「学会」が動いていくべきか、教員間の情報共有や協力を意識し、対策を講じる必要があることを確認した。

■報告事項（各大学の現状、新規入退会者、情報共有など）

1. 全国大会（山形大会）の報告と宮崎大会について

山形大会における教大協全国美術部門役員会、大学美術教育学会理事会、部門協議会、シンポジウムの内容について報告がなされた。また、本年度、宮崎大会の案内と次年度、四国地区が全国大会担当につき、近畿地区会員はサポート役として予定されていることが報告された。

2. 各大学からの報告

共通して、新入生の状況、卒業生の就職先、教職大学院への移行状況、コロナ禍での授業形態や卒業制作展、地域連携について、教員予算配分への危惧などが報告された。

作成者： 大阪教育大学 谷村さくら

【四国地区会】

日時

令和4年6月26日（日）
13:00～15:00

場所

Zoomによる
オンライン会議

出席者 全4名

高知大学：金子宜正
鳴門教育大学：山田芳明
香川大学：吉川暢子
愛媛大学：福井一真

■協議事項■

1. 地区会費について

地区会の徴収ならびに今後の取り扱いについて意見交換を行った。

地区会開催校の福井（愛媛大学）から、近年、COVID-19の影響から会議等が遠隔実施されることが多く、交通費などの旅費を支給する機会が激減したことを受け、地区会の会費についての見直しが提案された。今年度も地区会がオンラインで開催されたことを受け、交通費等が必要ないことから今年度以降は地区会費を徴収しないことが了承された。

また、会費管理の負担軽減などを考え、来年度以降も地区会費を徴収しないことが了承された。

また、香川大学から地区会費の用途についての提案があり、各大学に持ち帰って検討することになった。

2. 大学美術教育学会香川大会について

教室の確保やおおまかな日程について香川大学から進捗状況の報告があった。

対面実施に必要な引き継ぎ資料の収集や、大会HP作成等の業者の選定など、大会開催に向けて準備すべきことを四国地区として共有した。

その際、鳴門教育大学から学会開催の準備委員会を立ち上げ、四国地区の4大学（鳴門教育大学・高知大学・香川大学・愛媛大学）以外の大学美術教育学会会員にも協力を呼び

かけて学会開催に向けて四国全体で取り組んでどうか、という提案があった。その提案について、各大学の了承を得られたため、準備委員会の立ち上げも含めて、今後必要に応じて四国地区における大学間での協力体制を構築していくことを確認した。

3. 四国地区の今後について

令和4年度の四国地区全国理事として、鳴門教育大学：山田芳明（令和4—5年）にお願いすることになり了承された。

現在香川大学で管理されている地区会費については、2023年度の大学美術教育学会香川大会まで、香川大学が継続して管理を行うことを確認した。

また、会費の管理や今後の取り扱いについては、地区会の規約内容も確認したほうがよいという意見もあり、地区会の規約についても必要に応じて修正・変更することを確認した。

■報告事項（各大学の現状、新規入退会者、情報共有など）

1. 新規入退会者について

新規入会者2名（鳴門教育大学・香川大学）、退会者1名（愛媛大学）を確認。

■その他

特になし。

作成者： 愛媛大学 福井一真

【中国地区会】

日時

令和4年6月18日(土)
13:00～15:30

場所

Zoom

(主催大学 島根大学)

出席者：全14名

島根大学：川路澄人

藤田英樹

小谷充

有田洋子

野村真弘

山口大学：吉田貴富

上原一明

平川和明

広島大学：三根和浪

八木健太郎

池田史志

岡山大学：山本和史

赤木里香子

大橋功

<地区理事交代挨拶>

・2020-2021 山本和史：岡山大学

・2021-2022 藤田英樹：島根大学

・2022-2023 吉田貴富：山口大学

<議長選出>

慣例として次年度開催大学(山口大学)から吉田貴富先生が選出された。

■報告事項

1. 全国委員会・理事会報告

藤田英樹(島根大学)

第1回 2021.9.24 開催(zoom)

第2回 2022.3.31 開催(zoom)

2. 2021年度地区会会計報告

赤木里香子(岡山大学)

事前のメール回覧により全員監査をおこなった。

前年度広島大学から岡山大学への会計関係資料の送付費用について21年度会計に計上されておらず、修正したものを後日送付しメール審議することとなった。

(6月20日付メール審議により承認された。)

■協議事項

1. 教大協研究会等補助金申請についての申し合わせへの記載(島根大学)

昨年度研究会補助金申請については総会当番校の判断に一任する案が提示され、承認された。今後の補助金申請に関し、Web会議システムの経費や担当校の開催状況を鑑み、申し合わせ記載を今年度検討することとなった。

<原案>

申し合わせに以下のように記載

教大協中国地区会の研究集会補助金申請について

<*2021年6月5日 教大協中国地区会総会にて承認>

(1) 教大協中国地区会の研究集会補助金申請については総会当番校の判断に

一任する。

原案が承認され、申し合わせの様式にあわせ、申し合わせ項目の2として記載することとなった。

2. 地区会会計についての意見交換(山口大学)

毎年、会計資料一式を次の当番大学に送る手間とお金が無駄ではないかという問題意識から今後の地区会計のあり方について意見交換を行った。

主に、会計担当大学の持ち方、会計引き継ぎの際の送金手数料の問題、会計引き継ぎ資料のデータ化などについて話し合われた。総会当番校が次回総会当番校の順番があたるまでの5年間を会計担当大学とする案やネットバンクの活用などの案が出されたが、今回の議論をたたき台として各大学で議論をしておき、次年度総会で議題として扱い今後の方針について結論を出していくことが確認された。

■その他

1. 情報交換

以下の内容について各大学の状況について情報交換を行った。

- ・現在の各大学のコロナ対応状況
- ・近年の入試状況と受験生の出身傾向

2. その他

出席者から、小学校への教科担任制の導入に関して図画工作が含まれないことなどについて、教大協全国美術部門として検討や声明の発表など、きちんとした動きをして欲しいという要望があった。

<次期定例総会当番大学挨拶>

山口大学：吉田貴富(2022-2023年度理事)

作成者：島根大学 藤田英樹

【九州地区会】

日時

令和4年7月1日（金）
14:30～17:00
（※予定より30分超過）

場所

オンライン開催
（主催：佐賀大学教育学部）

出席者 全23名

福岡教育大学：宮田洋平
千本木直行
松久公嗣
笹原浩仁
本田代志子
加藤隆之
上野真歩（新加入）
長崎大学：中川泰
大分大学：藤井康子
村上佑介
熊本大学：喜久山悟
梅田素博
松永拓己
宮崎大学：石川千佳子
大泉佳広
大野匠
樺島優子
鹿児島大学：桶田洋明
和田七洋
清水香
琉球大学：スプリー・ティ
トゥス
佐賀大学：和田学
栗山裕至

■開会あいさつ

開会にあたり、佐賀大学の小野文慈教育学部部長より挨拶があった。教員配置の少なさとそれに伴う質保証の危うさ、四国5大学の連携教職課程の動向等について話され、九州の意見をぜひ全国の場合へあげて頂きたいとの言葉があった。

■協議事項

1. 令和4年度日本教育大学協会全国美術部門協議会 / 第61回大学美術教育学会宮崎大会の協力体制について

九州地区全体として大会運営へ協力していくことを確認した。全国美術部門協議会「美術教育と今日教育思潮—21世紀に求められる力量を若手美術教育者は如何に考えるか—（原案）」のパネラーの選出及び研究発表会の司会進行役（各大学から1名）の選出依頼があり、7月中旬をめどに進めていくこととした。

2. 科研費の申請などへ向けた共同研究のための体制やネットワークづくりが、九州管内の大学間において可能かどうか

共同研究などによる科研費などの外部資金の獲得が、国立大学の評価において重視されている中、教大協の組織が活かせるかどうか

■報告事項

1. 大学改革を踏まえた組織改編について（当日口頭）

国立大学の適正な規模、教員養成系大学・学部的高度化、他大学との連携・集約がうたわれている中で、各大学の現状について報告がなされた。

2. 美術分野での教採対策の取り組みについて（書面）・教員採用試験受験率アップへの取り組みについて（当日口頭）

美術分野の教員独自で行なっている中学美術、高校美術の教員採用試験に関する指導の具体的内容、受験率アップへ向けて実施されている取り組みについて、各大学から情報提供があった。

3. コロナ感染対策下の授業運営について（当日口頭）

コロナ感染対策が求められ、リモート授業を余儀なくされている大学から、美術（特に実技）の授業を各大学ではどのように工夫して実施されているかの提案があり、各大学から報告があった。

4. ICT活用に関する採用試験対策について（書面）

令和5年度（令和4年度実施）公立学校教員採用選考試験で、第二次選考試験において新たに「ICT等を活用し、数名のグループで協力して課題に取り組むグループワーク」を行う試験を実施予定との報告が某大学よりあり、各県教員採用選考試験でのICT活用に関する事項の有無や対策等について、各大学から報告があった。

5. 美術科の志願者数と受験者数（初等及び中等・過去3年）について（書面）

近年美術科の志願者数の減少が著しいという某大学からの提案があり、各大学の状況報告がなされた。

6. 美術科卒業生（現役）の教員採用試験合格者数（校種別・過去3年）について（書面）

近年、全般的には教員採用数は増加しているものの、中学校美術や高等学校美術の採用数は厳しい状況にあることから、九州各県の各大学の状況報告がなされた。

作成者： 佐賀大学 栗山裕至

■学校美術教育支援委員会報告

第74回全国造形教育研究大会長野大会（兼第76回長野県美術教育研究大会北信ブロック大会）は、令和4年8月26日(金)・27日(土)に、「IMA! ∞ふれてはじまる 感動物語」を大会テーマに、現地参加とオンライン参加のハイブリッド方式で開催された。本大会では各校種別会議が実施され、大学部会では4点の主たるテーマ（1. 大学教員による美術教育研究への積極的な支援、2. 教員養成系大学の課題についての現状報告と情報交換、3. 美術教育関連8団体の継続と学会統合問題、4. 美術館教育の現状）について、検討を行った。

●中学校美術科教員実態調査結果について

平成26年3月に全国大学造形美術教育教員養成協議会と日本教育大学協会（以下、教大協）全国美術部門とで組織された大学造形教育連絡協議会の事業の一環として、全国造形教育連盟大学部会（学校美術教育支援委員会が兼務）において中学校の美術科の専任教諭や非常勤講師の中学校へ

の配属状況等について把握するための「中学校美術科教員実態調査」を実施することを決定し、これ以降、継続的に調査をしている。

令和4年度においては、全国造形教育連盟に所属する各都道府県・政令指定都市の事務局を対象に質問紙調査（7月～12月）を行い、16の事務局から回答を得た（回収率約34%）。

調査の結果、美術科の専任教諭を配置している学校は約53%、配置していない学校は47%あること、非常勤教員・講師で対応している学校や免許外教員で対応している学校の数は都道府県によって大きな差があることなどが明らかになった。

この結果は、令和4年度教大協全国研究部門代表者連絡協議会を通して、教大協会長へ「中学校美術科担当専任教諭の適正配置に関する要望書」として提出した。

本調査は、信頼性・有用性の向上を目指して調査方法や調査時期などを改善しながら、継続的に実施していく予定である。

令和4(2022)年度 役員会報告

令和4(2022)年度 第1回 日本教育大学 協会全国美術部門役員会 議事録

日時：令和4年9月16日(金)

15:00～16:00

場所：オンライン会議(zoom)

宮崎大学教育学部棟(1階)第1会議室・
木花キャンパス

出席者：

新関・代表・理事長、新井・副代表、相田・副代表、山田・副理事長、松島・副理事長、八重樫・顧問、村田・総務局長、松尾・副総務局長、総務局員(藤井・手塚・芳賀・前芝)、高林・総務局事務、幸・大会運営委員、河西・監事、地区全国委員(李、佐々木、向野、本田、岡田、柳沼、杉林、永沼、谷村、藤田、吉田、栗山、中川)、西村・学校美術教育支援委員会委員長、私立大学全国理事(鳥越、浅野)

進行：村田

書記：高林

I あいさつ

開会の辞：

議事に先立ち、新井・副代表より挨拶があった。

代表挨拶：

議事に先立ち、新関・代表・理事長より挨拶があった。

開催大学挨拶：

議事に先立ち、石川・大会運営委員長の代理として幸・大会運営委員より挨拶があった。

II 報告事項

1 令和4年度 部門会員登録状況

福井・副総務局長より配付資料をもとに令和4年度 部門会員登録状況について、地区会報告書完成についての報告がなされた。

2 令和4年度 役員・各種委員会委員

村田・総務局長より配付資料をもとに令和4年度 役員・各種委員会委員について報告がなされた。

3 令和3年度 事業報告

村田・総務局長より配付資料をもとに令和3年度 事業報告について報告がなされた。

4 令和4年度 部門会員名簿

福井・副総務局長より、今年度の発行がないことの報告がなされ、来年度への協力依頼がなされた。

5 部門各種委員会

(1) 学校美術教育支援委員会

西村・学校美術教育支援委員会委員長より、全造連大会が4年ぶりに長野で開催され、3名の教員で大学教員と現場との連携、美術教育関連8団体の連携と学会統合問題などが話し合われた。くわえて来年(2023年)は全造連大会が無いため、関東地区や東北地区の実施内容をサイトに掲載して大会の代わりにすることの報告がなされた。中学校美術科教員実態調査について、美術科専任教員の配置校が、毎年少しずつ減少している旨の説明がなされた。

6 令和4年度 宮崎大会・部門協議会

新井・副代表より配付資料をもとに宮崎大会・部門協議会について説明がなされた。

III 協議事項

1 令和3年度決算、令和4年度 事業計画(案)・予算(案)

(1) 令和3年度 決算

芳賀・総務局員より配付資料をもとに令和3

令和4（2022）年度第2回日本教育大学 協会全国美術部門役員会 議事録

年度決算について説明がなされ、承認された。

（2）令和3年度監査

河西・監事より資料をもとに令和3年度監査について説明がなされ、承認された。

（3）令和4年度事業計画（案）

村田・総務局長より配付資料をもとに令和4年度事業計画（案）について説明がなされ、承認された。

（4）令和4年度予算（案）

芳賀・総務局員より配付資料をもとに令和4年度予算（案）について説明がなされ、今年度より中西印刷に会計業務を委託する予定であることの説明がなされ、承認された。

2 令和4年度部門会報

吉川・総務局員の代理として村田・総務局長より配付資料をもとに令和4年度部門会報について説明がなされ、承認された。次年度も今年度と同様に6月末までに発行することについての説明がなされた。

3 次年度以降の地区会の委員選出

福井・副総務局長より、次年度の地区会の委員選出についてお願いがなされた。

4 次年度以降の大会での部門協議会

新井・副代表より、次年度以降の部門協議会について、各地区からテーマや内容について、総務局に積極的に挙げてほしい旨のお願いがなされた。

V あいさつ

閉会の辞：相田・副代表より閉会の挨拶がなされた。

日時：令和5年3月14日（火）

13：00～15：00

場所：オンライン開催（Zoom会議）

出席者：

新関・代表・理事長、新井・副代表、相田・副代表、松島・副理事長、八重樫・顧問、村田・総務局長、松尾・副総務局長、福井・副総務局長、総務局員（芳賀、吉川）、高林・総務局事務、大会運営委員（幸、吉川）、新野・監事、地区全国委員（佐々木、李、虎尾、渡邊、向野、本田、丹治、杉林、永沼、谷村、吉田、栗山、中川）、西村・学校美術教育支援委員会委員長、私立大学全国理事（浅野、大成）

進行：村田透（総務局長）

書記：高林未央（総務局事務）

I あいさつ

開会の辞：

議事に先立ち、新井・副代表より開会の辞がなされた。

代表・理事長挨拶：

議事に先立ち、新関代表・理事長より挨拶がなされた。

オンライン会議出席者自己紹介：

議事に先立ち、オンライン参加者より自己紹介がなされた。

II 報告事項

1. 総務局から

※別紙：II -1-1【議事録（確定）】R4 第一回部門役員会・学会理事会（9.16）議事録 20221004

※別紙：II -1-2【議事録（確定）】R4 宮崎大会_部門・学会総会（9.17）20221005

※別紙：II -1-3【議事録（確定）】R4(2022)第3回運営委員会、第4回総務局会（2023.3.1）

2023.3.10

※別紙：Ⅱ -1-4 総務局からの報告事項 2023.3.14

※別紙：Ⅱ -1-5 R4_ 役員_ 各種委員会 20230228

(※赤文字の氏名：任期 R4 年まで)

- ・村田・総務局長より、配布資料をもとに、令和 4 年度第一回部門役員会・学会理事会 (9.16) 議事録と令和 4 年度宮崎大会_部門・学会総会 議事録の説明がなされた。
- ・村田・総務局長より、配布資料をもとに、令和 4 年度第 3 回運営委員会、第 4 回総務局会についての説明がなされた。
- ・幸・大会運営委員より、令和 4 (2022) 年度全国美術部門協議会・第 61 回大学美術教育学会「宮崎大会」報告がなされ、宮崎大会の会計について学会から援助があったことへの御礼と会計監査が異論なく完了したことへの報告がなされた。
- ・芳賀・総務局員より、令和 5 年度から部門・学会の会計業務を中西印刷に委託すること、来年度の香川大会においても 3 年ぶりの現地での対面開催となるので、3 月に入って中西印刷と協議を重ねていることの報告がなされた。
- ・村田・総務局長から、地区全国委員 (部門) と地区全国理事 (学会) の兼任について、部門と学会の両会員であることが前提あるため、地区全国委員と地区全国理事の選出は留意して欲しい旨の説明がなされた。
- ・村田・総務局長から、論文掲載者より学会誌掲載負担金の請求書と領収書の分割発行について要望があったが、学会誌業務の複雑化となるため対応しない結論に達したことへの報告がなされた。
- ・村田・総務局長より、配布資料をもとに総務局から報告事項として、香川大会での総会の議長団 (Ⅴ：中国・九州地区) から 1 名、「Ⅲ：北陸・東海地区」から 1 名) の選出、部門・学会

の会員情報の確認と更新、令和 5 年度の新規役員・各種委員会委員の選出、令和 5 年度の全国美術部門会員の入退会報告お願いについて説明がなされた。

2. 令和 5 年度日本教育大学協会全国美術部門協議会について

新井・副代表より、「Society 5.0 の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」を引用しつつ、「探究・STEAM 教育を社会全体で支えるエコシステムを考える、探究的な学習」の方向性で協議会のテーマを検討している旨の説明がなされた。四国地区の各国立大学から登壇者を選出していただき、「探究的な学び」そのものでなくても、それに繋がる話を提供していただく旨の提案がなされた。テーマについて美術科と探究的学習の関連での設定が困難な場合は、四国地区の現状から共同教育学部的な方向でも考えていることの説明がなされた。

3. 委員会報告

(1) 将来構想委員会

・美術科教育学会 叢書 5 『授業の現在』執筆者推薦について

※別紙：Ⅱ -3-1-1 「美術教育学叢書 5 号執筆者推薦のお願い」

※別紙：Ⅱ -3-1-2 「叢書サンプル 4 p 説明 NEW」

新関代表・理事長より、三学会連携事業の一環である美術科教育学会 叢書 5 『授業の現在』執筆者推薦について、美術科教育学会から大学美術教育学会宛に執筆協力者の募集依頼があったことへの報告がなされた。本件の窓口は将来構想委員 (新関、新野) であり、現時点で 10 ～ 15 名の候補者の中から執筆協力者を検討している報告がなされた。

・令和4年度 第1回将来構想委員会 (2023.1.27)
※別紙: II -3-1-3「1回将来構想委員会(2023.1.27)
議事録」

新関代表・理事長より、資料に基づき、令和4年度 第1回将来構想委員会 (2023.1.27) の報告がなされた。検討事項は以下である。

1. 部門と学会との関係性や両者には役割があり、分離独立にはメリットとデメリットがある。現状では地区会と部門との関係もあり、早急に分離独立に至らないが、部門・学会、大会などの持続的な運営を考慮すると、部門の会員数の減少もあり、両者の関係や業務内容を精査・再考する必要がある。
2. 三学会の連携について 学会アンブレラ方式では、現在の三つの学会の特色を生かしつつ、連携・統一できる内容や業務がないか「新組織の連携機構」で模索・検討して、順次進めていく。学会アンブレラ方式の名称案として、「日本美術教育研究機構」を提案する。
3. 三学会誌の執筆細目などの共通化 3学会での学会誌の文献や注表記などの共通化には、賛同する。その形式については、本学会のAPA方式が、学内や国際的にも望ましい。ただし、要望はあるものの形式の決定については、「造形芸術教育協議会」の代表者協議に委ねる。

以上3点を造形芸術教育協議会 (2023.3.11) において新関代表・理事長より提示した報告がなされた。

新井・副代表より、部門は地域との関係、学会は研究機関であったこと、全造連が教員の多忙化により活動できなくなっていることを踏まえ、部門は地域との連携に大きくシフトしていく必要があるとの示唆がなされた。新関代表・理事長より、大学と地域との関わりの弱体化への懸念、地区会の意義の大きさ、本部門・学会が地域を大事にしていくアイデアが求められていることの指摘

がなされた。新井・副代表より、それぞれの地域についての状況を地区会から提案していく必要性についての指摘がなされた。新関代表・理事長より全国の状況を把握していきたい旨の発言がなされた。

村田総務局長より、大学の専任教員数減少に伴い、令和5年度の香川大会では四国地区の国立大学で協力して運営いく方向性であると報告があった。

・令和4年度 大学造形教育連絡協議会
(2023.2.14)

※別紙: II -3-1-4「令和4年度 大学造形教育連絡協議会 (2023.2.14) 議事録」

新関代表・理事長より令和5年2月14日(火)に開催した大学造形教育連絡協議会について報告がなされた。浅野・私立大学全国理事より、全美協と学会との協働においては中長期計画を立案する必要があるとの報告がなされた。大成・私立大学全国理事より、全美協の活動を本部門・学会の会員に周知するために全国大学造形美術教育教員養成協議会のホームページを参照して欲しい旨の発言がなされた。

村田・総務局長より本協議会からの提案について質問がなされ、新関代表・理事長より、大会の一会場を全美協にあてること、全美教より選出する総務局員2名は全美協で検討する旨の回答がなされた。

(2) 学校美術教育支援委員会 (大学造形教育連絡協議会)

※別紙: II -3-2-1「2022年度【要望書】全国美術部門 2022.12.19」

※別紙: II -3-2-2「令和4(2022)年度版、中学校美術科教員実態調査の結果 2022.12.19 改」

西村・学校美術教育支援委員会委員長より、令

和5年度の全国造形教育連盟の全国大会は関東ブロック（開催地：埼玉県川口市）で行う方向性であることの報告がなされた。

村田・総務局長より、令和5年度の学校美術教育支援委員会・委員（大会開催地の国立大学より2名）について質問がなされ、西村・学校美術教育支援委員会委員長より未定であるとの報告がなされた。

(3) 学会誌委員会

※別紙：Ⅱ -3-3「令和4年度学会誌委員会報告 2023.3.1」

山田・学会誌委員会委員長（代読：村田・総務局長）より、資料に基づいて、投稿本数は71編、事前登録数は106件、最終結果が掲載42編（掲載率59.1%）などの報告がなされた。次いで、投稿数と掲載数の低下傾向、二重投稿対策として三学会での連携、第56号から事前申込を廃止、三学会で学会誌投稿論文規程等の共通化の検討、論文提出時の英文要旨の提出を掲載決定後の提出へと変更する方向で中西印刷と検討中である旨の報告がなされた。

Ⅲ 協議事項

(1) 学生会議について

手塚・総務局員より、大会企画である学生会議の件について、2020年度と2021年度の実施に基づいて成果と今後の課題について説明がなされた。第一回学生会議から14年が経過し、コロナ禍の中での開催を経て、「学生の発表の機会創出と教員のFD」のコンセプトが変容してきた。よって現在の「学生会議」を発展的に解消し、「若手研究者育成」というコンセプトを提案する。このコンセプトによる企画として、学部生のセッションの実施、学部生・院生向けに実践研究方法のレクチャーや研究論文の書き方のワークショップな

どが考えられる。

村田・総務局長より、現在の「学生会議」の参加学生の様子について質問がなされた。手塚・総務局員より、「学生会議」は学生のみでは議論が深まらず発展しないという問題があるものの、学生が自由に話し合える場として意義があったとの回答がなされた。くわえて、村田・総務局長より、手塚・総務局員からの提案について日本美術教育学会の大会において実践研究や研究論文の執筆のレクチャーをしている報告がなされた。また、新野・監事から手塚・総務局員の提案である「学生会議」の発展的解消と、若手研究者育成の場をつくる提案について賛成の意が示された。

Ⅳ その他

(1)2008年からの（Ⅴ期）の全国大会開催の記録と予定

※別紙：Ⅳ -1「全国大会開催の記録と予定 _20220728」

村田・総務局長より、資料にもとづき、次年度以降の開催大学について、令和5年度は香川大学、6年度は金沢大学、令和7年度は関東地区、令和8年度は北海道地区会である報告がなされた。続いて村田・総務局長より、金沢大会の大会運営委員の選出状況について丹治・地区全国理事（北陸地区より代理出席）へ質問がなされた。丹治・地区全国理事（北陸地区より代理出席）より、本委員は未定であるため、金沢大学の教員に選出を依頼する旨の回答がなされた。

Ⅴ あいさつ

相田・副代表より、閉会の挨拶がなされた。

令和4(2022)年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会総会 議事録

日時：2022年9月17日(土)

13:30～14:00

→台風の影響により、オンライン開催からメール審議へ変更(審議期間9月21日～9月27日)

司会進行：幸 秀樹(宮崎大学)

1. 挨拶

代表 新関 伸也(滋賀大学)

2. 議長団選出 総務局

3. 議事

【報告事項】

(1) 令和4年度 役員・各種委員等

代表 新関 伸也(滋賀大学) ※「大会冊子」p.8

(2) 令和3年度 事業

総務局長 村田 透(滋賀大学) ※「大会冊子」p.9

(3) 令和3年度 決算

総務局 芳賀 正之(静岡大学) ※別紙参照

(4) 令和3年度 監査

監事 新野 貴則(山梨大学) ※別紙参照

河西 栄二(岐阜大学)

(5) 令和5年度 協議会の開催大学

大会運営委員 吉川 暢子(宮崎大学) ※別紙参照

(6) その他

【協議事項】

(1) 令和4年度 事業計画(案)

総務局長 村田 透(滋賀大学) ※「大会冊子」p.9

(2) 令和4年度 予算(案)

総務局 芳賀 正之(静岡大学) ※別紙参照

(3) その他

4. 議長団解任

5. 閉会の辞

副代表 新井浩(福島大学)

日本教育大学協会全国美術部門および大学美術教育学会の総会の結果について

日本教育大学協会全国美術部門会員各位

大学美術教育学会会員各位

平素は本部門・学会の運営にご協力いただきありがとうございます。

令和4(2022)年度日本教育大学協会全国美術部門協議会および第61回宮崎大会(2022年9月17,18日)をオンライン開催としました。

台風の影響により、本部門と学会の総会について、メール審議(期間:9月21日～9月27日)としました。

本部門と学会の総会における提案について、会員の皆様からのご異議はありませんでした。

そのため総会における提案は、承認いただいたものと判断いたします。

本件に関して、ご協力いただき、ありがとうございました。

2022(令和4)年10月5日

日本教育大学協会全国美術部門代表

大学美術教育学会理事長

新関 伸也

令和3(2021)年度 全国美術部門 決算

■収入の部

(円)

	費目	予算額	決算額	増減	備考
年会費	会費	861,000	681,000	-180,000	3,000円×227名
	未納分	0	93,000	93,000	
助成金	教大協助成金	60,000	60,000	0	
繰越金	繰越金	1,207,753	1,207,753	0	
	合計	1,770,795	2,041,753	270,958	

■支出の部

(円)

	費目	予算額	決算額	増減	備考
補助金	全国協議会補助金	200,000	200,000	0	山形大会
印刷製本費	会報発行	150,000	86,691	-63,309	
	名簿発行	0	182,886	182,886	
運営費	運営委員会・拡大総務局会	300,000	65,370	-234,630	旅費
	会場費	50,000	0	-50,000	会場費
	各種委員会等	50,000	2,205	-47,795	部門調査
事務経費	通信費	100,000	36,140	-63,860	会費請求
	事務費	10,000	5,170	-4,830	
	雑費	10,000	500	-9,500	
委託費	事務支局業務委託費	99,000	99,000	0	会員管理業務
負担金	全造連負担金	4,000	4,000	0	年会費
予備費	予備費	797,795	0	-797,795	
	合計	1,770,795	681,962	-1,088,833	

◆収入の部－支出の部＝1,359,791（次年度へ繰越）

令和4(2022)年度 全国美術部門 予算案

■収入の部

(円)

	費目	前年度決算額	予算額	増減	備考
年会費	会費	681,000	813,000	132,000	3,000円×271名 (令和4年度会員)
	未納分	93,000	0	-93,000	
助成金	教大協助成金	60,000	60,000	0	
繰越金	繰越金	1,207,753	1,359,791	152,038	
	合計	2,041,753	2,232,791	-191,038	

■支出の部

(円)

	費目	前年度決算額	予算額	増減	備考
補助金	全国協議会補助金	200,000	200,000	0	宮崎大会
印刷製本費	会報発行	86,691	150,000	63,309	全国美術部門会報 No.56 (発送費込み)
	名簿発行	182,886	0	-182,886	隔年発行
運営費	運営委員会・拡大総務局 会	65,370	0	-65,370	旅費
	会場費	0	50,000	50,000	会場費
	各種委員会等	2,205	50,000	47,795	部門調査
事務経費	通信費	36,140	100,000	63,860	会費請求
	事務費	5,170	10,000	4,830	
	雑費	500	10,000	9,500	手数料
委託費	事務支局業務委託費	99,000	379,000	280,000	会員管理、会計業務
負担金	全造連負担金	4,000	4,000	0	年会費
予備費	予備費	0	1,279,791	—	
	合計	681,962	2,232,791	1,550,829	

令和3(2021)年度 事業報告

5月31日(月)	R3 論文集『日本教育大学協会研究年報』査読候補者推薦
6月13日(日)	第1回運営委員会、第1回総務局会(オンライン会議)
6月23日(水)	「山形大会オンライン開催案内」郵送
6月23日(水)	「部門会報 No.55」発行・郵送
7月1日(木)	「山形大会案内(オンライン開催)」ホームページ開設、メール配信
9月18日(土)	第2回運営委員会、総務局会(オンライン会議)
9月17日(金)	令和2年度会計監査(新野監事・原口監事)
9月24日(金)	大会前日諸会議：第3回総務局会、第1回全国美術部門役員会
9月25日(土)～9月26日(日)	令和3年度日本教育大学協会全国美術部門協議会(オンライン開催)：部門開会式、部門協議会、部門閉会式、部門総会、大会開催大学引継ぎ(次期開催大学-宮崎大学)
10月2日(土)	第73回全国造形教育研究大会 北海道大会(全国造形教育連盟大学部会)
12月7日(火)	「山形大会概要集・記録集」郵送・HP掲載
12月31日(金)	「日本教育大学協会全国美術部門令和3年度名簿」発行
(令和4年)1月	日本教育大学協会全国研究部門連絡協議会(東京学芸大学本部)(開催見送り) ※2月3日に日本教育大学理事会開催(Web会議)
2月20日(日)	第3回運営委員会、第4回総務局会(オンライン開催)
3月31日(木)	第2回部門役員会、臨時総務局会(オンライン開催、メール会議)
3月31日(木)	日本教育大学協会への事業報告(R3.4-R4.3 事業分) *上記のほか、運営委員会(メール会議)等を随時開催

令和4(2022)年度 事業計画

5月31日(火)	R4 論文集『日本教育大学協会研究年報』査読候補者推薦
6月12日(日)	第1回運営委員会、第1回総務局会(オンライン会議)
6月28日(火)	「部門会報 No.56」発行・郵送
6月28日(火)	「宮崎大会オンライン開催案内」郵送
7月1日(金)	「宮崎大会案内(オンライン開催)」ホームページ開設、メール配信
8月26日(金)～27日(土)	第74回全国造形教育研究大会 長野大会(全国造形教育連盟大学部会)
9月11日(日)	第2回運営委員会、総務局会(オンライン会議)
9月14日(水)	令和3年度会計監査(新野監事・河西監事)
9月16日(金)	大会前日諸会議：第3回総務局会、第1回全国美術部門役員会
9月17日(土)～9月18日(日)	令和4年度日本教育大学協会全国美術部門協議会(オンライン開催)：部門開会式、部門協議会、部門閉会式、部門総会、大会開催大学引継ぎ(次期開催大学-香川大学)
12月5日(月)	「宮崎大会概要集・記録集」郵送・HP掲載
(令和5年)1月	日本教育大学協会全国研究部門連絡協議会(東京学芸大学本部)(開催見送り)
3月1日(水)	第2回運営委員会、第4回総務局会(オンライン開催)
3月14日(火)	第2回全国美術部門役員会(オンライン開催、メール会議)
3月31日(金)	日本教育大学協会への事業報告(R4.4-R5.3 事業分) *上記のほか、運営委員会(メール会議)等を随時開催

令和4（2022）年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会 第61回 大学美術教育学会 宮崎大会報告

令和4年度日本教育大学協会全国美術部門協議会及び第61回大学美術教育学会宮崎大会を9月17日（土）・18日（日）の二日間の日程で開催いたしました。



本大会は、新型コロナウイルス感染症収束の兆しも見えない状況で、本部総務局との検討を重ねた結果、一昨年度と昨年度に続きオンライン開催となりました。また、当日は大型の台風が九州に接近する中でのスタートとなりました。

本大会は、現地での開催状況をライブ配信する形式とあらかじめ収録した研究発表等の内容をオンデマンドで配信するハイブリッド型のオンライン形式による大会と致しました。

17日の教大協全国美術部門開会式に続いて、「日本教育大学協会全国美術部門協議会」が開催されました。テーマは「美術教育と今日的教育思潮」。サブタイトルは「21世紀に求められる力量を美術教育者は如何に考えるか」で、新井浩副代表（福島大学）をコーディネーターとして九州地区5名の大学教員から発表がありました。

先ず新井副代表から基調説明がありました。
1. テーマ設定の意図。2. 現在の国立大学法人が置かれた状況。3. 今日の様々な教育思想の流れ。4. これらの状況を視野に入れた上での美術教育の位置と意義。

続けて九州地区5名の大学教員から事例発表がありました。徳安和博(佐賀大学)氏からは、「俯瞰」することの意義が「俯瞰的『彫刻のみかた』」の実践から示されました。今日の多様化した彫刻表現をマトリックスの中に位置づけることで、全

体の拡がりの中での理解を学生に促した実践。さらにその俯瞰的見方は学生自身の置かれた状況の客観的理解を促し、いわゆるVUCA時代を生き抜く子どもたちの資質・能力の育成にも貢献することを予感させる発表でした。

藤井康子（大分大学）氏からは、「つながる」、「つなげる」というキーワードが示され、美術のつなげる力による学びの創出の事例が提示されました。子どもたちの個々の学びが美術教育によって融合される、図工・美術科が学校全体のカリキュラムの関連を促す、大学での美術教育が様々な学問分野をつなぐ、等の様々な可能性を示した発表でした。

大野匠（宮崎大学）氏からは、専門分野の彫刻の視点から附属学校園との共同研究の取り組みが紹介されました。「つないで・つるして」という題材における「場の形成」、材料ではなく「素材」として向き合う際に生まれる対象との「対話」や「間合い」など、事物との真摯な対峙が対象と自己の可能性の発現を促す事例発表でした。



全国美術部門協議会現地参加者の様子

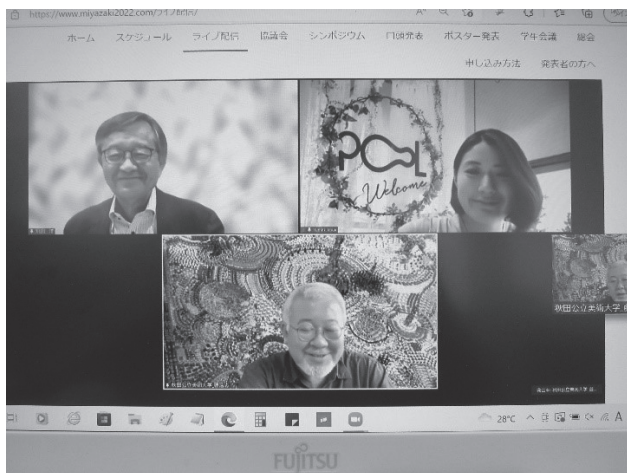
和田七洋（鹿児島大学）氏からは、VRによるアート（教育）の可能性が示されました。附属中学生による体験を紹介した動画では、3次元で描画が可能であるにもかかわらず平面的に描いてしまう点、アカデミック系の彫刻家による体験を紹介した動画では、VR内での多視点による創作活動の可能性が示されました。

ティトウス・スプリー（琉球大学）氏からは、Creative Learning Environment の概念が示されました。フリースクールにおけるアートプロジェクトを通じた環境の再発見やコロナ禍を経たからこそ実感される共同的体験の場づくり等が紹介されました。

これら5名の事例発表を受け、活発な協議が進み、今日的教育思潮を見据えた今後の展望の視座が示されました。

当日午後に予定されていた部門並びに学会の総会は、台風接近に伴う危険回避のため、急遽ライブ配信による協議を中止としました（総会での協議内容は、後日メール審議となりました）。

大学美術教育学会シンポジウムは、3名の登壇者が遠隔からの参加で予定通り開催されました。シンポジウムのテーマは、「STEAM教育とアート」で、登壇者に井上祐巳梨氏（STEAMJAPAN代表理事）、飛田洋氏（元宮崎県教育委員会教育長）、藤浩志氏（秋田市文化創造館館長・秋田公立美術大学教授）をお迎えし、幸秀樹（宮崎大学）が司会・コーディネーターを務めました。石川千佳子副学長（宮崎大学）の挨拶の後、三氏による発表がありました。



シンポジウム登壇者（ライブ配信の画面）

井上氏は、日本と欧米のSTEAM教育の基盤の違いを押さえ、A（アートによる課題抽出）＋STEM（理数系の解決力）で「好きなことを社会とつなげる」意義を指摘しました。A（アート）の土壌があるアメリカやイギリスなどでのSTEM教育の動向やインドでのダイバーシティ

社会における教育動向の紹介もありました。

飛田氏は、豊かな教育・行政経験から教育の「境界値」、感性と理性の結びつき、頂点ではなく広がりのある領域へアプローチする大切さを提言しました。また県教委教育長時代の教員養成課程縮小に対する意見書提出や特別支援学校における美術採用枠の設置、県立美術館長時代のアートを感じる人生・日常を生み出す取り組みなどが紹介されました。

藤氏は、手を動かす大切さ、あるものを探すではなく「ないからつくる」美術の意義、「コンタクト（接触）とコミュニケーション（対話）」など自身の作家経験から抽出・結晶化されたキーワードが提示されました。氏からは、美術大学は美術を教える学校か？、美術では食っていけないか？、など再考を促す反語的問いが示されました。

三氏の発表の後、相互の質問のやり取りも交え、作って終わりではなく、伝える経験の蓄積の意義、未来への視座、ゼロリスクが最大のリスクなどのキーワードが共有されました。

本大会における研究発表は、口頭発表24件、ポスター発表11件の申し込みがあり、大会HP上でオンデマンド配信されました。オンデマンド配信された研究発表に対しては、視聴者がコメントを残すことができ、さらに発表者からのレスポンスが繰り返されていました。対面には及ばないものの、オンデマンド配信の可能性も示されたのではないかと感じました。

また18日（日）午前には6名のライブ研究発表、学生会議が遠隔会議室システムで実施されました。ライブ発表では1発表につき30～40名の視聴参加者があり、質疑応答も実施できました。本大会はコロナ禍、台風下での開催となり、厳しい状況で運営側としても十分行き届かないのではないかと終始不安を抱える大会となりました。このような状況下でも大会が無事に終了できましたこと、参加者、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

（宮崎大学大学院教育学研究科 幸 秀樹）

お知らせ

会員情報（メールアドレス）の更新のお願い

経費削減ときめ細やかな会員サービスの実現のために、部門からの連絡の一部を可能な限り電子メールに移行させていただいております。会員の皆様には電子メールアドレスに変更等がございましたら、随時、e-naf システムより会員登録情報の更新をお願い致します。

<更新方法>

- ①日本教育大学協会全国美術部門会員情報管理システム（e-naf）ログイン画面を開く
<https://e-naf.jp/ART-BUMON/member/login.php>
- ②「ログイン ID（会員番号）」と「パスワード」を入力（ID は封筒の宛名の右下に記載があります。今後も必要となりますので必ずご自身で控えておいてください。パスワードを紛失した場合は、ログイン画面より再発行が可能です。）
- ③会員登録情報をクリック
- ④画面一番下の「修正」をクリック
- ⑤修正したら、確認画面→登録へと進む。
- ⑥登録変更のご連絡（自動配信メール）が届いたら変更完了

部門会員の名簿について

日本教育大学協会全国美術部門では、2年ごとに会員名簿を作成し、会員の皆様にお送りしております。

令和5年度は、会員名簿を作成する年度となっております。各地区会を通して会員の皆様に名簿作成にご協力いただきますので、どうぞよろしくお願い致します。

なお、会員名簿は年度末に発行する予定です。

年会費の支払いに関するお願い

日本教育大学協会全国美術部門は、皆様の年会費により運営されています。年会費の支払いにご協力ください。

滞納されている方は、早めに納入してください。なお、払込取扱票の再発行はいたしかねます。未納額が不明な場合には、会員様ご自身で e-naf より会費納入状況をご確認いただけます（メールによるお問い合わせにも、従来通り対応致します）。また、領収書は払込の控えをもって代替させていただいておりますので、ご了承ください。

■振込先

口座番号：00940-9-173101

加入者名：日本教育大学協会全国美術部門

問合せ先について

日本教育大学協会全国美術部門では、平成26年度以降、業務の一部をアウトソーシング（中西印刷株式会社に業務委託）しております。つきましては、会員管理・会費に関するお問い合わせは、日本教育大学協会全国美術部門事務支局（中西印刷内）へ、その他については、総務局へお問い合わせください。

<会員管理・会費関連に関するお問い合わせ>

日本教育大学協会全国美術部門事務支局
（中西印刷株式会社内）

Tel:075-415-3661

e-mail:art-bumon@nacos.com

<総務局へのお問い合わせ>

総務局専用電子メールアドレス

e-mail:daibibumon@uaesj.com

【総務局広報担当】

村田 透（滋賀大学）

福井一真（愛媛大学）

松尾大介（上越教育大学）

高林未央（総務局事務員）

